

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばとあたま・体のリハ室（単位1）		
○保護者評価実施期間	2025年3月3日 ～ 2025年 3月 11日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2025年3月3日 ～ 2025年3月4日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 5月 6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別や集団でのことばや意味理解の練習、上・下肢や手指～巧緻性といった身体機能の練習、社会性や保育、ADLでの練習が展開できる	遠城寺式乳幼児分析的発達検査、Barthel Indexの比較的簡易なものから、WISCやWPPSIなど各種知能検査やS-M社会生活能力検査、DCDのスクリーニング、PVT-R、JSI-Rの複数検査と観察評価の視点で実施できる	身体発育状況はもちろん、精神発達面や言語・意味理解の状態、ADL自立度、社会性の発達等を早期からチェックして日々の療育に還元させていきたい
2	広域避難場所でもある運動公園が事業所から徒歩1分圏内に位置している	日々の療育の息抜きや屋外活動での評価に合わせて利用が出来る。室内空間での療育のに加えて、体を動かし、遊びの中でも集団活動に参加することが出来ている。	避難訓練も併せて実施していきたい 年間計画の見直しと実践
3	日頃から児童の療育状況や個別集団活動を保護者に伝え、発達の特性や状況理解などに関して共通理解が出来ている 活動内容の更なる充実	児童発達支援の5領域、保育の5領域を参照しながら児童の得意（まれに不得意も）一般的に活動に還元するように努めている。内容をミーティングにて考案し遂行している。10の姿も参照の対象	10の姿も参照の対象に加えていきたい 同法人内の他事業所のプログラムの長所も積極的に取り入れながら活動内容の常態化を予防していきたい 年間計画の見直しと実践

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域に開かれた事業運営や交流の頻度	地域での児童館や福祉祭り等への参加依頼やお声掛けはいただいている。だが、開催時間帯や日曜・祝日などが障壁となりタイミングを逸している現状がある	公共施設利用や図書館などの利用は不定期だが行えている。日中時間帯での参加可能な行事等への参加、継続可能な形態での参加を検討していきたい
2	マニュアルの活用、緊急避難の発生訓練がうまく機能していない 関連機関との交流・連携の頻度	アナウンスが出来ていなかった、周知の徹底不足 事業所の見学依頼は多い。一方、施設を見学させていただく機会は多くはない現状があることは否定できない。横のつながりや日常的な交流を深め、繋がりを強化していきたい。	年間計画等へ落とし込んでおく 事前の情報収集
3	室内空間：個室空間の確保、集団支援の使い分け	クールダウンを要する児童の特性と並行して行う、活動との室内空間を使い分けの選択肢が限られる	特性に合わせた支援を基本をしながら、集団と個別訓練をうまく組み合わせていきたい